

EKLY REPORT ROTARYCLUBOF hakusanishikawa



ガバナー方針：「一步前進しよう(one step ahead)」 クラブ基本方針：「この地球を優しさで満たそう・・・未来ある子ども達のために」

白山石川ロータリークラブ

2020年1月30日 No.864

会長：武藤一彦 幹事：織部資子

クラブ会報委員長：永瀬喜子 副委員長：藤本和久 委員 五十嵐隆介・林 哲也・多田 茂

事務局/白山市西新町 159-2 松任産業会館 4階 TEL076-274-2907 FAX076-274-2908

Mail: info@hakusanishikawa-rc.jp HP://www.hakusanishikawa-rc.jp

◆会長挨拶（武藤一彦会長）

新型コロナウィルスの流行が続いている。2月3日朝刊の第一面には、大きな文字で「新型肺炎死者300人超す」と。細かくは、中国本土の感染者数が、1万四千三百八十人、死者は304人になったと発表した。死者がジワジワと増えているのには恐怖を覚えるが、その肺炎41名の内訳を見ると、25歳から49歳にピークがあり、50歳から64歳に第二のピーク、65歳以上に第三のピークがある。18歳から24歳は1名のみ死亡、18歳以下に死亡者はいない。41名の初発症状としては、発熱(98%)、咳(76%)、呼吸困難(55%)、筋肉痛／倦怠感(44%)と、普通の風邪症状に近い。熱がない時もあり、そういう意味では、診断が難しいと言える。まもなく迅速試験も出来るだろうし、ワクチンが出来るのは6ヶ月後であるが、先ず診断と治療薬が作られるだろう。記憶から薄れかけているSARSの流行は突然姿を消したが、やはり高齢者で基礎疾患のある人達が犠牲になった。治療薬とワクチンに期待するが、SARSの様に、突然姿を消す事にも期待したい。



◆お客様の紹介

- ・横笛奏者 藤舎 真衣（とうしゃまい）様
- ・2019～2020年度受入交換留学生 リヴィアイ・ハウザーさん

◆表彰の伝達

米山功労者感謝状

第35回メジャードナー

福田 裕君



◆幹事報告（幹事）

1/27 地区国際青少年交換委員会より 受入交換留学生ロータリー修学旅行のご案内が届く。

期間：2020年3月26日（木）～3月29日（日）

訪問先：広島、大阪

1/30 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より 新型コロナウィルス関連肺炎についての注意喚起（ご報告）が届く。

◆委員会報告

◆プログラム

講師 横笛奏者 藤舎 真衣 氏

演題 『笛の音色』



◆出席報告（新陽一郎委員長）

- 出席率： 80.65%
- 出席者： 22名 /34名
- 出席補填： 3名
- 出席免除者： 0名
- メーキャップ：1名

1/25 永瀬 喜子(地区国際青



少年派遣交換留学生(オーストラリア)来日
オリエンテーション委員会)

◆ニコニコボックスの発表(西田直樹会員)

武藤 一彦 会長 藤舎眞衣様、

卓話ありがとうございました。横笛
の美しい音色でコ
ロナウイルスの恐
ろしいキバを取り
去って欲しいと思
います。



小柳 善裕 藤舎眞衣様、卓話ありがとうございました。

福田 裕 大勢のお客様と共に創立 40 周年を迎えられ感謝しています。これからも努力したいと思います。

林 哲也 先日、1月 23 日に会社の 40 回目の創立記念日を迎えることが出来ました。

所用により、早退いたします。

橋本 恵子 先日の母の葬儀へのお心遣いに感謝いたします。
ありがとうございました。

野澤 誠治 本日欠席いたします。申し訳ございません。

本日合計 26,000 円 今年度累計 393,896 円

◆ちょっと読んでみてください

職業奉仕について

昨日で職業奉仕月間が終わりましたので、職業奉仕に因んだ話しを致します。

紙製造卸業者であるロータリアンの述懐であります。即ち、紙製造などという仕事は、社会的地位も低く、卑しい職業であって、利益も少ないし、自分は悪い星の下に生まれたなど絶望的に世の中を見ていましたが、ある日翻然としてその非を悟ったのであります。それは、人々が毎朝食べるパンを清潔な状態、で家庭に運ぶことが出来るのは、自分が作っている紙あればこそであります。

食事というものは、単に食欲を満たすために採るのではありません。人間が神の司る宇宙の秩序体系の下に帰依するための生命を維持するために食事を採るのであって、食事を採るということは、最高の宗教的な儀式であると考えられるのであります。

アメリカの東部には、この考え方があります。例えば、ミシガン大学の食堂は、ケンブリッジ大学のキングスカレッジのチャペルを模して作られていますが、ここでは、食事は儀式と考えられています。

したがって、服装もスーツを着用します。

この様な儀式に用いられるパンは、清潔でなければなりません。それを清潔な状態で届けられるのは、自分の作った紙あればこそであります。その時に、自分は悟るところがあつたというのであります。

要するに、紙を作り商っていることは同じであります。現象的には変わりません。それを、どの視点でとらえるかによって覚悟が違ってくるのであります。これが大事なところであつて、職業奉仕というのは、まさにこの考え方であります。

また、例えば、医師が診察する場合に、沢山の患者が来ているのを見て、自分の収入が増える、と考えるのではなく問題ではありません。そうではなくて、自分が大学以来勉強した知識をもって、地域医療のためにどこまで潤すことができるか、と考えることによって、職業イコール奉仕という考え方になるのであります。診察という行為は同じだが、考え方方が違うのであります。そして、それが結局、職業を榮えさせることになるとロータリーは説くのであります。

要するに、職業を現象と見る限り、やっている事は同じだが、その考え方を変えるとロータリーが提唱している職業奉仕の世界に入って来るということであります。

友情と職業奉仕

ロータリーには 2 つの大切なことがあると思います。友情と職業奉仕です。

ポールハリスになぜロータリーを作ったのですかと聞いたとき、その答えは「寂しかったんだよ。シカゴの荒れた時代に本当に語り合える仲間が欲しかったんです。」と言われたそうです。ロータリーの原点とは何か。「語り合う」ということが原点でしょう。お互いに語り合い方向性を導き出し、事業を進めていくことがロータリーではないでしょうか。そういう中で経営者としての資質が磨かれて行くのではないでしょうか。今からは若い経営者の方々にロータリーに入っていただき、ロータリーで磨かれ、一人前の経営者になっていただきたい。ロータリーは人を育てる所であり人が育つところ、特に経営者や地域のリーダーに入っていただきたいものです。

会員増強はクラブの都合だけで考えているところがあります。以前経営コンサルタントの人から「売上は地域の支持のバロメーターなんだ。自社のサービスが良ければ、自然に広がって行くはずだ。それが広がらないのはサービスが地域から高く評価されていないことではないですか」ロータリーの魅力を語ることが大切です。ロータリーは自分を磨けるところ、リーダーシップを磨くには最高の場所です。これだけ優秀な経営者が集まっているところはないのです。本を読んでリーダーシップは磨けません。現場でしか磨けません。いろいろな意見をぶつけ合いその中から一つの方向性を見出し、皆で協力し合う。そんな中でリーダーシップ磨かれるのです。